

社会福祉学会 News letter

第21号 2020年3月26日発行 長崎国際大学社会福祉学会(代表・中村 龍文)

長崎県佐世保市ハウステンボス町2825-7 長崎国際大学 中村 龍文 研究室 TEL0956-20-5508



社会福祉学科からの今年度の便りです

学科長 中村 龍文



桜の花の到来と共に、新型コロナウイルス感染のパンデミックが終息を迎えることを唯々心から祈る次第であります。社会福祉学科からの令和最初の便りです。今年もこの1年間の出来事について思いつくままに、私の所感も含めてご報告したいと思っております。

今年度より、我が学科にはお一人の新しい仲間が加わりましたことをまずは報告致します。久田貴幸講師です。久田講師はご自身のご挨拶にもありますように介護福祉領域を専門としている先生で、これからの活躍を大いに期待しています。

今年度の研究分野における活動では、競争的外部資金を7名の教員が獲得して、それぞれの分野で研究を着実に発展させていっているようです。今後は、これらの研究費から得られた成果を国内外の権威ある雑誌へ積極的に投稿して行って欲しいものです。そして世界から長崎国際大学には「この人あり」と呼ばれるようになられることを切に希望しています。ちなみに本年度は単著・共著の著書・総説・原著で査読付きの論文が併せて15編刊行されています。「余裕のない所からは何も生まれないという観点に立てば」と昨年度は書きました。今年は「働き方改革」によって、少しでも時間の都合等が改善されるのかなと少し期待を寄せましたが、中々現実にはきびしいものがありました。そんな中でも、ある一定の業績を挙げている点については、十分な評価に値するものと思っています。益々の発展を心から願っています。今年度のベストティーチャー賞(すなわち昨年度の功績に対して授与されますが)につきましては授業アンケート部門では安藤佳珠子講師、Virág Viktor 講師、石橋亜矢講師、村上広美助教の4名が、ベストプラクティス部門では種橋征子講師がそれぞれ受賞されています。大変おめでとうございます。

大変喜ばしいことに、第16期生の社会福祉士国家試験において合格率が45.7%と例年の合格率と比較して、大きな飛躍をとげることができました。これもひとえに国家試験合格支援委員会の野田委員長による綿密な企画立案のもと、社会福祉学科全教員が一丸となって指導を行ってきた成果と思います(詳細については本ニュースレターの中に記載されています)。長崎国際大学も来年度には20周年を迎えますが、我が社会福祉学科でもそれを記念して卒業生のお互いの連携を深める企画を考えています。さらに、厚生労働省によって令和3年度に予定されている社会福祉士及び精神保健福祉士養成課程における教育内容等の見直し、すなわち新カリキュラム編成に乗じて、将来構想委員会(委員長:Virág 講師)を立ち上げ、新しいシステム構築へ向けて案を練っているところであります。

さて、今年度一杯で高島恭子教授、安藤佳珠子講師、金澤由佳講師、種橋征子講師、村上広美助教の5名の先生方が退職されます。とても残念なことですが、それぞれの先生方には我が大学での経験をもとに、新天地での発展と活躍を心から願うものであります。

以上、今年度1年間の我が社会福祉学科についてご報告をさせて頂きました。まだまだ、ご報告しなければならないことが、多々あるかと思いますが、紙面の都合上お許しください。来年度も皆様方と一緒に力を合わせて頑張っていきたいと思っています。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

2020年3月25日 中村研究室より

研究室レポート：久田研究室 便り



福祉実践に関する教育と研究に取り組みたい

平成31年4月から社会福祉学科に着任いたしました久田貴幸と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、千葉県の大学でスポーツマネジメントについて学んだ後、長崎県内の特別養護老人ホームで約6年間介護職員として従事しました。その後は、介護支援専門員として約7年間従事し、その中で介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員(主任介護支援専門員)、精神保健福祉士を取得いたしました。社会福祉の実務の後に、長崎県内の専門学校において介護の教員として約7年間勤務し、本年度から本学に着任したというのが私の略歴です。

これまでの研究の内容として、介護福祉士をはじめとした福祉専門職が、何を見て、どのように考え、どのような判断を行い実践するのかという専門職者の思考過程を明らかにする事に取り組んできました。専門職者の思考過程を明らかにすることで、思考過程の中にある専門的な特性から専門性を導き出し、問題点について抽出することができるのではないかと考えています。また、今後は、介護福祉の実践現場におけるメンタルヘルスや合理的配慮に関する研究に加えて、福祉施設において従事する介護職員の教育的課題についても研究していきたいと考えています。

本学における教育活動については、主に介護福

祉士養成に係る科目を担当しています。思い起こすと、あっという間の1年間であったと感じています。教育活動においては、特にアクティブラーニングを積極的に取り入れ、教員が話す時間よりも学生が考え、議論を行い、発表する時間に費やすよう授業を組み立てています。まだまだ、満足のできる授業はできていませんが、学生の声を聴きながら、学生が主体的に学ぶことができるものを作り上げたいと考えています。

社会貢献の活動としては、佐世保市で複数の福祉関係の委員や福祉施設における外部委員を務めさせて頂いております。これまで経験したことがない活動をさせて頂き、大変光栄に感じているとともに、しっかりとした活動をしなければならないと感じています。今後も、社会に対して自身ができることは何かを常に考えながら活動していきたいと考えています。

まだ慣れない事も多く戸惑いはありますが、来年度は、研究活動と教育活動に一層力を注ぎ、学生さんと一緒に社会貢献の活動ができたらと考えております。未熟な教員ではございますが、自分に出来ることをしっかりとやっていきたいと考えております。

今後ともよろしくお願いいたします。

(久田 貴幸)

お知らせ

第18回 長崎国際大学社会福祉学会総会 & 第17回研究発表会

- ◎ 日時：2020年6月13日(土) 13時半～ (予定)
- ◎ 会場：1101 教室
- ◎ テーマ：「共生社会における医療ソーシャルワーカーの立ち位置」
- ◎ 内容
 - ①基調講演：「地域連携における医療ソーシャルワーカーの役割」
講師：佐賀医療センター好生館 地域連携室 大石 美穂係長
・シンポジウム(最前線で実践されているSWらにより)
 - ②自由研究など発表
 - ③学内学会定例総会

卒業生の今



「沢山のことに挑戦

していきたい」

15期生 諸石 優美



皆さん初めまして。私は現在、長崎県平戸市にあります、平戸市社会福祉協議会通所介護平戸事業所で生活相談員兼介護職員として働いています。大学卒業時に社会福祉士と精神保健福祉士の国家資格を取得し、現在の職場に入社しました。入社してまだ日は浅いですが、日頃の業務に楽しさを感じています。

私は以前から、この業界で働くことを決めていたのですが、勉強していく中で、地域で暮らす方々のニーズに寄り添った支援をしていきたいと考えようになりました。今、その思いを実現することができ、この仕事に誇りを持っています。

私は生活相談員として、平戸市で生活されている利用者様に寄り添いながら、日々働いています。平戸市社会福祉協議会では、市の実情に合った様々なサービスを提供しています。私が働いている通所介護（デイサービス）は、様々な目的をもって利用され、一番近い存在でもあるため、日頃の観察であったり、何気ない一言や思いを拾った

り、他機関多職種との連携を図る上でも、重要な立場にあると感じています。デイサービスは利用者様にとって重要な役割を担っており、『生きがいつくり』、『見守り支援』、『認知症予防』、『身体機能低下の予防』など様々です。さらに、ご本人様に限らず、ご家族様、地域の方々、他機関など、様々な方の相談窓口にもなっています。その為、私たち職員も様々なニーズに対応できるよう、職員会議や研修などを通して、情報を交換したり、勉強を重ねたりしています。また、離島での仕事にも従事しており、そこではまた違った福祉を知ることができ、私にとって大きな刺激になっています。

この一年を通して、私自身、皆様のおかげで成長することができました。まだまだ未熟で学ぶことも多くありますが、相談員としての自覚や責任をもって、これからもこの仕事に従事していきたいです。そして、更なる飛躍を目指して、たくさんの方に挑戦していきたいです。

Thank you 2020

長崎国際大学は、2020年度に20周年を迎えます。本学科でも、以下のような企画の準備に取り組んでいます。是非ともご予定下さい！

- ① **社会福祉士実習指導者講習会**（予定） ※ 長崎県社会福祉士会主催事業
 【日程】2020年11月21日（土）～22日（日）
 【会場】長崎国際大学（2号館）
- ② **NIU 社会福祉学科 20周年記念パーティー**（予定）
 【日時】2020年11月21日（土）18時～20時
 【会場】長崎国際大学（食堂）

詳細な募集案内は8月までお送りする予定です。多くのお申し込みとご参加をお待ちしております！

担当・お問い合わせ先

ヴィラーク講師（卒業生等連携委員長）

Tel : 0956-20-5559 E-mail : virag@niu.ac.jp

2019年度NIU神戸災害ソーシャルワーク研修

震災・土砂災害等の頻度が高まる今日、歴史を遡って社会福祉の先駆者による災害支援の活動やその原動力を知ることにより、災害時におけるソーシャルワーカーの役割及びそのあり方を整理し、ソーシャルワークの意義を再考することは非常に重要なことだと感じています。そこで今回、9月28日(土)から29日(日)の2日間、阪神淡路大震災の後に復興を遂げた神戸を舞台に、学生8名、教員4名で研修を行いました。

1日目は、まず防災未来センターにて阪神淡路大震災に関する映像や資料等を通じて学びました。センター内には、数えきれないほどの資料が展示されており、災害の怖さや防災・減災の取り組みの大切さを理解することができました。その後、神戸ポートタワーに登り、復興した街並みを見た後、神戸港震災メモリアルパークの震災の形跡を見学

し、その被害の甚大さを忘れてはならないと実感しました。

2日目は、午前中に異人館街をまわり、震災後も残されている神戸の文化の魅力を肌で感じ、地域の特性・歴史を継承していく意味を思慮する機会を得ることができました。午後からは、賀川記念館にて賀川豊彦が行った事業や救貧活動に関する授業を受講しました。ノーベル賞最終候補にまで選ばれていた賀川豊彦は救貧・防貧等に尽力した人物であり、日本におけるソーシャルワークの先駆けであったことを学びました。また、その後を訪れた特別養護老人ホーム親愛ホームでは、施設見学と災害・防災・減災に関する取り組みに関する講話があり、災害ソーシャルワークの活動は様々な災害等を通じて発展・形成されていることを知ることができました。

この研修を通じ、私たちソーシャルワーカーは災害に対

し、それぞれの地域で防災・減災を文化として形成できるよう、常に対策や支援のあり方を考えるとともに、被災者に寄り添って生きる意味への支援を行っていくことに存在意義があるという結論にいたりしました。

以上の研修成果については、①阪神淡路大震災と救済・防災・減災、②賀川豊彦のソーシャルワーク、③災害ソーシャルワークの3つのテーマに担当チームを作り、研修を振り返りながらまとめ、11月2日(土)の開国祭にて発表しました。OB・OGの方や家族、友人からたくさんコメントや質問があり、とても充実した発表会となりました。

最後に、この研修は本学学長裁量経費事業の助成によって実施されたものであり、学長はじめ大学教職員の皆様のご支援があって実施することができました。心から深く感謝申し上げます。(野田 健)



「人と防災未来センター（津波体験コーナー）」

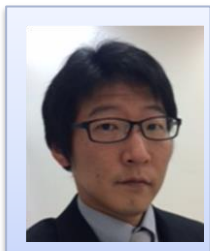


「神戸ポートタワー」と「神戸港震災メモリアルパーク」



「賀川記念館」と「特別養護老人ホーム真愛ホーム」

国家試験合格支援報告



国家試験合格支援委員会会長 野田 健

2019年3月、第16期生の3福祉士国家試験の結果が出ました。受験者と合格者、合格率はそれぞれ次のとおりでした。

表. 第16期生の3福祉士国家試験の受験結果データ

項目	受験者数	合格者数	合格率	全国合格率	新卒合格率
社会福祉士	35	16	45.7%	29.9%	53.7%
精神保健福祉士	6	6	100%	62.7%	77.0%
介護福祉士	3	3	100%	73.7%	—

全国合格率や新卒合格率と見比べると、受験者の努力が実った結果と言えらると思います。ただ一方で、試験後に受験者みんなで行った自己採点時、合格を勝ち取れなかった受験者の涙が忘れられませぬ。悔しさ、切なさ、不甲斐なさ・・・様々な感情が涙となって瞳からあふれ、夢や目標を叶えていく難しさを噛みしめました。こうした国家試験と真摯に向き合った第16期生の受験者は、本学科の誇り高い卒業生として、社会へと飛び出していきました。

そして、2020年、今度は第17期生が受験に臨みます。2019年4月から主に下記のプログラムに取り組んできました。

表. 2019年度の国家試験合格支援のプログラム

1. 全体会
(1) 通常授業：年間週1コマ
(2) 追加学修時間：前期週2コマ、後期週5コマ
(3) 模擬試験（社会福祉士6回、精神保健福祉士2回、介護福祉士3回）
(4) レベルチェックテスト・カルテの導入
(5) 集中講座（夏季10日間、冬季2日間）
(6) 学修スペースの確保（2204教室を国試部屋として通年使用）
(7) 最新図書の貸出
(8) 国家試験のための移動・宿泊支援
2. 各福祉士クラスによる学修（各クラス担当責任者によるプログラム実施）
3. ゼミ毎での学修

これらのプログラムで学修をしてきた学生は、2020年1月26日の介護福祉士に3名、2月1日の精神保健福祉士に6名、2日の社会福祉士に37名が受験する予定です。どのような結果になったとしても、受験者一人ひとりがこの1年間を「人生で一番勉強した」「かけがえのない時間となった」と実感してほしいと願っています。そして将来、先輩方のように社会で活躍する福祉専門職になることを期待しています。

どうぞOB・OGの皆様、今後とも後輩や社会福祉学科を宜しく願いいたします。

2020年1月15日